

挑 戦 ～チャレンジ～

平成30年 6月22日発行
文責 学年主任 甲高 学

1学期も残り1ヶ月となりました。4月から3ヶ月が経ち、入学当初まだ小学生のようなあどけない表情をしていた生徒たちも徐々に中学生らしくたくましい姿（女子は女性らしい振る舞い）を見せるようになってきました。そんな中学一年生だからこそ悩みや戸惑いが子どもたちや保護者の方々にあると思います。そこで、今回から連載で「中学一年生とはどのような時期なのか」「親子関係のあり方とは」「中一ギャップを乗り越えるために」などを紹介したいと思います。

第1回 中学一年生とはどんな時期？

第1回目は、中学一年生とはどのような時期なのかを具体例とともに紹介します。

1 からだが大になる。
思春期にあたるこの時期は子どものからだから大人のからだへ変化する時期です。体つきが大きくなるだけでなく、男女の性差がはっきり表れてきます。この時期の子どもは身長を特に気にします。背の高さが保護者に近づいたり、越えたりすることは保護者に対する対等感を持ち、大人の仲間意識を持つことにもなります。このことは、保護者にもあまり知られたいくない秘密を持つことにもつながります。

2 知的にも情緒的にも大人になる。
算数が数学になるようにリンゴやミカンを絵や図で表していたものがxやyを用いた方程式などを使うようになります。つまり、具体物がなくても論理的に考えることができるようになります。このことは、大人から「～～をしなさい」といわれて実行していたことに対して「なぜ～～をしなければならないのか」を考えるようになってくることを表しています。

3 自分に気づくようになる。
日記などでは「〇〇が楽しかった、□□がつらかった。」という内容から、「△△という出来事があったがそれに対して私はこう思う」という心の表現ができるようになってきます。自分のからだの変化に注目し、他人とのちがいを自覚できるようになり、自分が何を思い考えているかということに関心が向いてきます。日記はひとに見せるためのものではなく、自分との対話の道具になってきます。

このような時期だからこそ**反抗期がやってきます**。思春期の心身の変化に伴い、保護者とは異なる一人の存在であるという意識を持つようになり、保護者の言うことに矛盾や不合理を感じるようになります。

例えば「1日2時間は勉強しなさい」→「なんで勉強しなきゃいけないの」「お母さんは子どものときやったの?」「学校で何があったの」→「別に」「お母さんには関係ないじゃない」と言ったりします。

また、訳もなく不機嫌になったり、思い通りにならないものに当たったりします。

最近の子どもには反抗期はなくなりつつあるといわれますが、全体的に穏やかな親子関係であっても、時と場合によっては反抗期が顕在化する（表面に表れる）のではないのでしょうか。次回は「反抗期をむかえる中学生との親子関係」について紹介します。

～期末テストの振り返りをしよう～

6月22日（金）で期末テストが終了しました。来週は解答用紙が返却され、自分の点数が分かってきます。中間テストのときにも連絡しましたが、振り返りが重要です。間違えた問題や分からなかった問題をしっかり復習して同じミスを繰り返さないようにして、学力を高めてほしいと思います。

《来週の予定》 6月25日（月）～6月29日（金）

日（曜日）	授業等の順序						学校・学年行事等	部活
	1	2	3	4	5	6		
25日（月）	月①	月②	月③	月④	月⑤	月⑥	6校時QUテスト	あり
26日（火）	火①	火②	火③	火④	火⑤	火⑥		あり
27日（水）	水①	水②	水③	水④	水⑤	水⑥		なし
28日（木）	月①	月②	月③	月④	月⑤		（月）の授業 お弁当 2年ファイナンスパーク	あり
29日（金）	金①	金②	金③	金④	金⑤			あり